

千葉支部 2023 年度 第 1 回資格更新研修会資格更新研修会 報告

2023 年 6 月 18 日(日)13 時~16 時 20 分

Zoom 配信によるオンライン研修会 参加者 52 名

幼児・児童の人権を守り、一人ひとりを大切にする支援について

—保育の質を高める取り組みへ—

講師 矢藤誠慈郎 先生 (和洋女子大学)

昨今、保育所等での不適切な保育実態が新聞等のメディアで大きく取り上げられています。臨床発達心理士が子どもの発達に応じた適切な支援を行ない、保育をより良いものにしていくためには、保育現場で起きている社会的問題についても適切に対応していくことが求められます。

本研修会では、保育の組織マネジメントをご専門とする矢藤誠慈郎先生をお招きし、子どもの最善の利益や権利擁護、他機関や他の専門職との連携の方法などの観点から、不適切な保育をどのように理解し、保育の質を高めていくと良いのかについてご講演いただきました。

最初に「不適切保育」について、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準や保育所保育指針解説等に示される内容を確認し、「不適切保育」を質の低い保育・不適切保育・虐待の3つに分けて考えました。そして各段階における保育の質の向上や保育の質の確保の重要性を理解しました。

既に全国保育士会では「保育所・認定こども園等における子どもの人権擁護のためのチェックリスト」(平成29年作成・平成30年一部改訂)を作成しています。このチェックリスト活用の際に注意しなければならないのは、どのような保育実践が望ましいのかを各園で共通理解を図っていくことであり、単に適切であるか否かを判定していくものではないということです。そして保育が適切であるかどうかを保育士個人の判断に委ねるのではなく、組織メンバーによる価値・ビジョン・目標の共有が必要です。

一方、組織メンバーの保育観には幅があり、利害関係も多様です。そのため具体的な取り組みを通してビジョンや目標を組織内で共有する必要があります。子どものできる・できないに注目するのではなく、その子どもの良さが発揮されているところに目を向けるなどを振り返りの視点として共有すると、実践についての語り合いや学び合いが生まれやすく、開かれた組織へと変化していきます。

さらに、組織内の対話を重視し、同僚性を高めていくことも大切です。具体的な方法として、対話的な学びのための約束事(行動の指針)を意識しながら、園内研修を進める方法をご紹介します。

(實川慎子)